

## 銀行から資金を 借り入れた場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



**新人さん：**銀行からお金を借りたんですね。業績は悪くないと聞いていたので、びっくりしました。

**先輩：**ああ、業績が安定しているのは事実だよ。ただ、最近の原材料高が今後も続くかもしれないから、前もって手を打ったんだ。

**新人さん：**じゃあ、お金がなくなったわけではないんですね。

**先輩：**念のために運転資金を厚くしておいたんだよ。前もって手を打っておかないと、資金がショートしてからでは遅いからね。

**新人さん：**一時的な資金の確保と聞いて安心しました。

### ○解説

「短期借入金」とは、金融機関、取引先、親会社、役員などの第三者から資金を借り入れた場合に生じた金銭

債務で、返済期限が1年以内に到来するものを処理する勘定科目です。「短期借入金」で処理する資金の借入は、金融機関等との金銭消費貸借契約に基づく証書借入だけでなく、手形を差し入れる手形借入や当座預金口座を利用した当座借越も含まれます。

「短期借入金」は流動資産に計上されますが、返済期限が1年を超える借入金は「長期借入金」として固定資産に計上します。この区分の基準を一年基準（ワンイヤールール）といいます。

借入による資金調達は金融機関によることが通常ですが、中小企業では当面の資金の確保のため、株主や役員から資金を借りることもあります。株主や役員からの借入金は、金融機関とは取引条件が異なる場合が多いので、「役員短期借入金」等の別の勘定科目を設けて区分表示するか、注記します。

### ケース1 証書借入した場合

① ×0年4月1日、1,000万円を借り入れる金銭消費貸借契約を〇〇銀行と締結し、当座預金口座に入金された。返済期限は×1年3月31日で、利息は年2%で返済時に一括して支払うことになっている。

【借方】 当座預金 10,000,000 / 【貸方】 短期借入金 10,000,000

② 上記①の借入金の返済期限が到来し、借入金と利息を合わせて小切手を振り出して返済した。

【借方】 短期借入金 10,000,000 / 【貸方】 当座預金 10,200,000  
支払利息 200,000

### ケース2 手形借入した場合

〇〇銀行から100万円を借り入れ、利息2万円を差し引かれた金額が当座預金口座に入金された。この際に期間6か月の約束手形を担保として差し入れている。

【借方】 当座預金 980,000 / 【貸方】 短期借入金 1,000,000  
支払利息 20,000

### ケース3 当座借越をした場合

限度額を200万円とする当座借越契約を〇〇銀行と締結している。当期末において、当座預金残高が50万円のマイナス（貸方残）となっているので、短期借入金に振り替えた。

【借方】 当座預金 500,000 / 【貸方】 短期借入金 500,000